2009年度プロジェクト活動報告

[1] タイトル：『新たな国際マネーフローとイスラム金融』

研究代表者：永野　護（附属経済研究所）
共同研究者：板倉　健（経済学研究科）

1．活動の概要

本年度の研究活動は、リーマンショック後の国際金融マーケットの動向について、イスラム金融、不動産証券化市場、日本の地域金融市場の３点について学会活動、実証研究活動を行った。学会報告では、本年５月の日本金融学会において、７月の Asia Finance Association においてイスラム金融に関わる学会報告を行った。イスラム金融のテーマは Islamic Finance and the Theory of Capital Structure と題するディスカッション・ペーパーとして年度中に名古屋市立大学経済学会より刊行を行った。また、２０１０年１月、不動産証券化市場の国際比較研究、Real Estate Securitization and the Debt Maturity Structure: Evidence from J-REIT を３月、名古屋市立大学附属経済研究所ディスカッション・ペーパー第５４号として、日本の地域金融市場についての研究、The Effect of Easing Monetary Policy in Regional Lending Markets in Japan は、第５５号として刊行した。

2．プロジェクト関連の活動

2．1　出版物

- Islamic Finance and the Theory of Capital Structure, Nagoya City Univ. Discussion Paper No. 501.
- Real Estate Securitization and the Debt Maturity Structure: Evidence from J-REIT, 名古屋市立大学附属経済研究所 Discussion Paper No. 54.
- The Effect of Easing Monetary Policy in Regional Lending Markets in Japan, 名古屋市立大学附属経済研究所 Discussion Paper No. 55.

2．2　インタビュー・メディア掲載

- ラジオ日経「アルプス・エコノミスト・アイ」２００９年5月・７月出演
- NIKKEI CNBC　４月出演
- ラジオ日経「アルプス・エコノミスト・アイ」２００９年9月・１１月出演
- 週刊エコノミスト　２００９年１１月１７日号「東アジア共同体の切り札は二国間協定」
  ２０１０年1月１５日号「環境外交の重大な岐路」　他

・トムソン・ロイター通信「インサイト」コラム執筆等

2．3　学会報告

(a) Islamic Finance and the Theory of Capital Structure, 日本金融学会 2009 年度春季大会, 2009 年 5 月 17 日（日）東京大学、討論者：細野薫（学習院大学）、座長：宇野淳（早稲田大学）

(b) Islamic Finance and the Theory of Capital Structure, Asia Financial Association International Conference 2009, July 3rd, 2009, Hilton Hotel Brisbane, Discussant: Ronald Ratti, Chairperson: Tony Hou

(c) Islamic Finance and the Theory of Capital Structure, 9th Comparative Analysis Enterprise Data (CAED) Conference, Hitotsubashi Memorial Hall, October 2-4, 2009

［2］ タイトル：『名古屋市・東山地区の経済的評価』

研究代表者：香坂　玲（附属経済研究所）
共同研究者：向井　清史（経済学研究科）

平成 21 年度は，主に①研究所シンポジムの開催　②研究　③研究交流等の活動を行なった。

シンポジウムは，「ひがしやま動植物園の新しい役割を考える～ニーズのギャップを探る～」というテーマで 12 月 11 日（金）の 14：00～16：30 で行われた。雨天であったが，185 名の参加の参加があり，またセミナーのアンケート結果では肯定的な意見が全体の 6 割程度であったこと，また新聞報道でも二紙が取り上げるなど社会的な反響があった。

調査研究では，研究テーマは，東山の森と動植物園とその再生事業を対象として，経済的価値や市民の嗜好について，基礎的調査を行なった。基礎的調査は，聞き取りアンケート結果の分析を中心に取りまとめた。プロジェクト対象としては，具体的に名古屋市の近隣に残された 410ha の森について，レクリエーションを中心に，教育面での効果，水源涵養機能，生態系への寄与など，主要な各機能についての評価を行なうことを目的として活動を行なってきたが，現在はレクリエーション機能に絞り，論文として発表した。

成果は，研究所の年報の他に，以下の形で投稿・発表している。

・香坂玲・庄子康（2010）　トラベルコスト法を用いた「なごや東山の森」のレクリエーション便益評価　ヒトと動物の関係学会誌 Vol.25 pp. 66-71

・他にも Developing Urban Biodiversity Indicators: Applying the DPSIR model to the CBD's cities and biodiversity processes　Ecological Research に投稿中（2009 9/15　受付）

最後に研究交流として，都市林の指標づくりについての調査は，日本学術振興会の特定国派遣制度の支援により，2009 年 8 月 1 日から 9 月 30 日までフィンランド森林研究所（METLA）Tyrvńinen Liisa 教

授の受け入れで，交換研究を行なった。

学会活動では，日本生態学会　第56回大会（3月末），第120回日本森林学会大会（3月末），環境三学会合同シンポジウム（6月）等に参加し，生態サービスの経済的評価等に関する議論を行なった。その他，講演などでは，4月13日には，東山会館にて，「ひがしやまミニワークショップ」で，京都大学の教授などと一緒に講演をし，動植物園を含む東山地区での生物多様性に関わる活動について議論を行なった。また6月24日には，総合学習の一環として，東山地区にある名古屋市立明星中学校において，東山地区の自然と生物多様性について，中学校二年生100名余りを対象に講演を行なった。

シンポジウムの報道

中部経済新聞：「動物園の役割議論　名市大　公開シンポ開く」（2009年12月12日，3面）

毎日新聞：10名古屋COP10「名古屋市立大公開シンポ　「子供や動物の視点も」東山動植物園の役割義論」（2009年12月12日，朝刊，愛知, 22面）に掲載）